

平成 27 年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■共同研究 3
主査名	堀田一吉・慶應義塾大学商学部 教授
研究テーマ	テレマティクス自動車保険の導入可能性と課題
研究の目的: <p>昨年に続いて、テレマティクス自動車保険導入に際しての法律的ならびに経済的な環境整備がどう図られるべきであるかについて、将来展望を試みる。また、テレマティクス技術を含めたビッグデータの活用により、新たな保険ビジネスモデルが生み出される可能性を考察する。</p>	
研究の経過(4月～9月): <p>今年度に入ってから、テレマティクス自動車保険を取り扱う保険会社が相次いでいる。今後、さらに追従する保険会社が登場する動きもあり、いよいよ、わが国でも本格的な導入が見られる状況である。テレマティクス自動車保険は、わが国保険業界のますます関心が高まっている。</p> <p>昨年度からの研究プロジェクトにおいて、テレマティクスの諸問題、特に、リスク評価をめぐる問題はかなり大きいことを確認したが、それ以外にも、経営戦略的にも課題は多い。さらに、この保険がもたらす功罪について、国民的理解が必ずしもなされていないことも問題と言える。わが国にテレマティクス自動車保険が導入されるとした場合に考慮すべき課題について、十分な議論がなされていないまま進展している状況にある。</p> <p>現在、諸外国の事例の資料収集、比較分析を中心に行っているが、やはり、理論面、技術面、経営戦略面、法律面、社会政策面など、さまざまな角度から考察が必要であることを実感している。海外の事例を研究することは、わが国への導入可能性と意義を確認することでもある。</p>	
下期へ向けて(課題等): <p>下期では、テレマティクス自動車保険の法律的ならびに経済的な環境整備のあり方を議論することに加えて、これを含めて、この保険がわが国に定着する新たなビジネスモデルになりうるのか議論をしてみたい。テレマティクス技術がもたらすビッグデータは、保険業の将来を大きく変貌させる可能性を秘めている。そうした観点から、後半では、ビッグデータ時代における保険業の展望にも研究の領域を広げていきたいと考えている。</p>	
研究メンバー(敬称略): <p>堀田一吉(主査・慶應義塾大学) 甘利公人(上智大学) 江澤雅彦(早稲田大学) 大坪護(日本損害保険協会) 加瀬幸喜(大東文化大学) 北村憲康(東京海上日動リスクコンサルティング) 福田弥夫(日本大学) 山野嘉朗(愛知学院大学)</p>	